

自然賛歌

阿品公園

妹尾 治 人

廿日市市の都市公園で一番面積の広い阿品公園（七五、一六六㎡）をたずねてみた。この公園は昭和五十四年八月一日の開園で、入り口に宮沢弘揮毫の公園碑が据えられている。

公園に入ると正面にメイン、ツリーとして大きな楠木が植えられている、公園樹はケヤキ・クスノキ・サクラ・アメリカフウ・ヒマラヤスギがそれぞれゾーンとしてまとめて植えられ、グラウンドの周囲にはカイヅカイブキがある。



広い公園の中には、テニスコート・ナイター設備のある野球場、子ども向けの遊具広場、南側に展望広場がある。そして嬉しいことにこの公園には自然林が取り入れられている。自然林はあまり手を加えることなく放任されたままだ。自然林には、アカマツ・コナラ・ヒサカキ・ハゼ・クリ・ムロノキ・カクレミノ・イロハカエデ等が見られる。散策道はテニスコートの東側から下の多目的広場まで付けられているほか展望広場から細い道が一本ある。

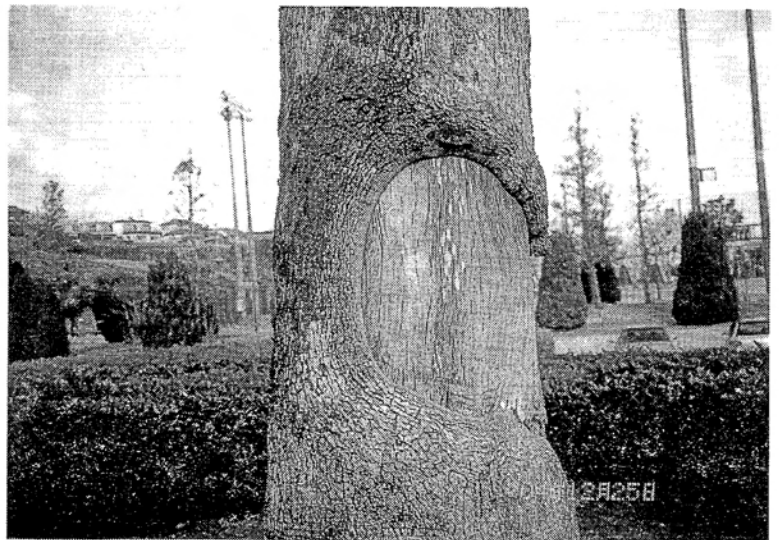
阿品公園はざっとこんな公園ですが歩いて見ると、いろいろ面白いと言うか楽しい発見があった。

その一、メイン、ツリーの楠木は根元のところに大きな傷があり、その傷を樹皮で包みこもうとしているが包みきれず、創造の卵（サンチェリーのモニュメント）のようになっている。今後この傷はどうなるか楽しみに観察したい。

その二、公園の芝生に冬の草、スズメノカタビラが入り込んでいて、その草が所々二〇cm位の円形に勢いのよいところがある、この現象は河川敷でよく見られることだが、これは犬の落とし物が肥料になっているのだと言われている。

その三、この公園にはゴミがない、犬の落とし物もない植え込みの中にも見当たらない、誰かが拾っているのだと思うが気持ちがいい。

その四、公園の樹木に手書きの名札が沢山付けられていたがその中で疑問なものがあった、それはトウネズミモチの札で、クロキと思われる木にそれが付けられていた、これは本気で名札を見てもらう為に、わざと意地悪をしたものと思われる。このユニークな間違いで、ほかに何本かあるだ



ろうと間違えさがしを楽しみに園内を歩いてみたが残念ながらこの一本だけだった。

阿品公園を南側に降りると道路をはさんですぐ細くて長い阿品台緑地公園があり、廿日市西校前まで約四〇〇m位のびている、広い阿品公園と、この緑地公園の自然をたずねて歩けば散歩と言うよりハイキング気分で一汗かくことが出来る。

阿品台団地の開発で造られたこの公園は団地のど真ん中にあることもあり、冬でも多勢の人が利用していた。

阿品台瀬戸の島々指呼に見る

自然観察指導員